



TITLE:

# 倉敷天文臺第5回講習會報告

AUTHOR(S):

水野, 千里

---

CITATION:

水野, 千里. 倉敷天文臺第5回講習會報告. 天界 1936, 17(187): 38-38

ISSUE DATE:

1936-10-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/167348>

RIGHT:

- 2) ペルセ座ベ星(アルゴル) 有名な食変光星で、アルゴル型の名を持つ。

光度: 2.3等—3.5等, 変光時間: 9.3時, 週期: 2.867日, 分光型: B8.

- 3) うし座ラ星 これもアルゴル型の代表的なものである。

光度: 3.8等—4.2等, 変光時間: 10.5時, 週期: 3.953日, 分光型: B3.

★ 黄道光: この月は、暁近くの東天に、黄道に沿った白光—黄道光がよく見られる。黄道附近の簡易な星図を持つて、その形態・消長をスケッチして記録される事を薦める。 (葵 星)

## 倉敷天文臺第5回講習會報告

水 野 千 里

山本一清博士を迎へて第5回講習會を開催した。

第1日 昭和11年8月24日

水野主事開會を宣し、原名譽臺長一場の挨拶をなし、山本博士は「基礎天文學」の題下に

1. 天文學とは何か＝新天文學と舊天文學—天文研究の精神—天文研究の方法—天文學と文化。

2. 天球の天文學＝天—天球—術語の定義—球面三角術—曆法—日食と月食に就いて述べられ、午後撮影それに引續いて、水野主事は「星座」に就いて講演、15時から茶話會、夜分天體幻燈及び天體觀望、山本博士は幻燈の説明、小山理學士は望遠鏡使用、天體を觀望せしめ、水野主事は實地星座に就いて説明した。

第2日 8月25日

9時から正午迄山本博士は續講。

3. 天體の運動理論＝ニュートン以前—ニュートン力學—軌道の要素—太陽系の過去から未來へ。

4. 恒星天文學＝位置—運動—光輝—スペクトル—視差。

5. 宇宙觀＝銀河—星霧—宇宙の發展。

6. 天體觀測の器械＝眼—望遠鏡—寫眞—天文臺に就いて講ぜられ、直ちに歸洛された。

第3日 8月26日

9時から正午迄、小山理學士は「變星」に就いて、水野主事は「天球」に就いて説明し、講習證書授與式に移り、水野主事の報告後、14名に講習證書を授與し、3日間の講習會は終了した。